令和　6年度　園評価書

園番号　2　　園名　安倍口こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること　　評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	関係者評価	改善策
たくましい子	気づき・ 自分なりに考えやってみよう	・五感を働かせて遊ぶ中で、いろいろな事を発見をしている	○その時期ならではの物・事に興味をもち、色や形・匂い等の特徴に気づき、素材に触れてじっくり遊ぶ姿がある ○自然の変化や不思議さを感じながら遊びに取り入れたりする ○音や声、話を聴くという経験をじっくり重ね体験することを大切にしている ○栽培やクッキングの際は匂いや味への関心等も膨らむような言葉掛けをした ○行事を経験することで様々な素材を使い工夫して制作することができる様になった	A	A	・少人数の良さが生活やあそびに活きている一人一人に目が行き届く保育をしていると感じた ・一律に同じことをさせるのではなくできること一人一人を尊重している様子が伝わってきた ・幼児ならではの教育、季節の植物を取り入れ子どもの様子に合わせて教材に触れさせていると感じた。	・子どもが興味を持てるように、保育者も一緒に気づき発見していく
		・気づいたことや、やってみたいことを自分なりに表現している	○子どもの表情が変わる瞬間や思いを受け止め、必要な教材を用意したり、どんな関わり方が良いかを配慮した ○表現の仕方を自分なりに考えたり、工夫し出来たことが自信につながっている ○「作ってみたい」「やりたい」の気持ちが様々な素材を使って作る楽しさにつながっている ○目標をもって取り組み、できるようになったことが自信につながっている	A	A		・子どもが表現したいことを受け止め、一緒に考えながら試してみる
		・自分の考えたことを、あきらめずに最後までやり遂げ達成感を味わう姿がある	○作ってみたい、やってみたいと思った時に道具や十分な教材を用意することで満足するまで遊ぶことができた ○声かけは必要な時だけにすることを共有し、試す過程も重視することで満足するまで諦めずに取り組む姿が見られた ○難しそうと思うとすぐに諦めたり、続かない場面も見られたりするが遊びの過程を大切にした ○運動会や発表会で自分なりの表現をやり通したことが自信につながっている	A	A		・子どものやってみようとする姿を認め、教材を揃えたり、見守ったり、励ましたりする環境事を継続して整える

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価		関係者評価	改善策
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・異年齢で関わり合う中でも、子どもの発達や経験を十分に把握し一人一人に合わせた適切な援助を行っている	○学年毎と全体活動のメリハリをつけ計画的に活動することで刺激になったり意欲につながったりした ○経験してきたこと発達の違い、使いたいもの、特性がそれぞれ違うので道具の出し方等に配慮した ○視覚からわかりやすい環境を用意したことで異年齢でも十分に楽しむことができた	A	A	・学年の垣根がなくしぜんに触れあっている姿に小規模園の良さを感じた ・保育教諭が子ども達に温かく接し、一人一人を尊重している様子が伝わってきた ・危機管理についてはこれで良いという事はなく気づいたことをどんどん改善していくことが大事。反省点によく目を向け改善点を深めていく事が大事 ・酷暑等の気候の変化に伴い園児の保育も遊戯室を使いながら気候にあった対応をしていくのが良い ・「明日は何をするの？」の親の問いに直ぐに答えスケジュールがわかっていることに成長を感じる ・その子にあった支援計画や保護者面談も行い、家庭との繋がりができている ・運動会では保護者の協力が多々あり良かった ・小学校で行われた支援部会の意見や交流があったので、２年生の廃材おもちゃ作りの授業に来校する機会を持つことができた。学校にとっても近くに園があることは良い経験になる ・地域との交流は高齢者も楽しみにしているので今後も交流を継続してもらいたい ・地域交流で会った人と近所で会った時にあいさつしてもらい地域とのふれあいの大切さを感じた	・発達や個人差を把握し、個々にどんな経験が必要なのかを考えて対応していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・一人ひとりの生活リズムを理解し、穏やかな気持ちで生活できるよう子どもの気持ちに寄り添っている	○子どもの情緒の安定を踏まえながら穏やかな気持ちで様々な活動に取り組んだ ○個々の体調に合わせ安定した生活リズムで過ごし、厳しい暑さによる体調の管理等にも配慮している	A	A		・一人一人の発達や特性に合わせて個々の援助をしていく ・子どもの心や体調の変化に気づけるよう、職員間の伝え合いに配慮する ・毎年厳しくなる暑さへの適切な対応をする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・「おもしろそう」「たのしい」「またやりたい」と思った時に考えたり、試したりできる環境が用意されている	○普段の体験の積み重ねが子ども達の遊びや運動会、劇場ごっこ等の行事に活きていた ○季節や子どもの興味に合わせて保育室、園庭、学年のワゴンの環境を整えた ●子どもの姿を予測して環境を用意しているが、予測が足りず準備が間に合わなかったり、ワクワク感が続きにくかったりした	B	B		・遊びが盛り上がったり意欲が高まったりするよう工夫する ・子ども達が選択できる様に教材の出し方を工夫したり遊びの内容を見直したりしたいく ・どんな教材がいいのかをまずは保育教諭が知る
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・様々な場面を想定しての避難、不審者訓練を行い、緊急時の身の守り方を身につけるよう指導する ・ヒヤリハット、ケガの分析を行い、事故防止につなげている	○　毎月実施する避難訓練の反省や課題をいろんな角度から見直し、再発防止に努めた ○身の回りの生活習慣に意識がもてるよう、職員間でも十分に話し合った（手洗い、うがい、ハンカチを持つ等） ●時代に合わせた訓練方法の見直しを行い、ヒヤリハットの共有の仕方、改善方法についても見直していきたい	B	B		・全体に周知する方法や時代に即した避難の仕方等、常に意識して取り組む ・引き続き年間で様々な想定を考えて計画的に訓練していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・健康的に過ごせるよう、家庭と連携して規則正しい生活習慣を身につけ、食育や生活習慣の充実に心がける	○定期的に食の大切さや健康の大切を食育の会等で伝えることができた ○生活習慣（早寝早起き・手洗い・身だしなみ）は、一人一人に丁寧に目を向け確認、チェックが必要 ●食育の会などで子どもには知らせる機会をもてるが、保護者にも意識して伝える機会を作れるともっと良いと思う	B	B		・日常的に食育を意識した関わりを保育に取り入れ、その様子を各家庭にも様々な方法で伝えていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・一人ひとりの子どもに合った支援計画を立て、毎月見直したり、外部研修で学んだことを活かしたりして全職員で共通理解をもち適切な支援している	○サポートプランを作成し、見えてきた姿を具体的に共有し、会議では様々な視点から支援方法を共有することができた ○サポートプランをもとに保護者と面談を定期的に行い、園の様子を具体的に伝え園と家庭との共通理解を図った	A	A		・園児の育ちを職員間で共有し、支援方法を職員同士で共有し保護者とも共有しながら進めていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・責任をもって分掌に取り組み、連携しながら、チームで保育を進めるという意識をもっている	○スケジュールを出したり、進み具合を会議で確認、共有したりした ○それぞれの学年で必要なものや準備するものを共有し、声を掛け合って仕事を進めている ○行事は早めの準備を進め、締め切りを確認したり、声を掛け合ったりしてチームで進めた	A	A		・お互いに連携協力し声を掛け合い、仕事の優先順位を考えながら取り組む
6 研　修	(1)研修体制の充実	・研修テーマ「おもしろそう」「たのしい」「またやりたい」という思いが実現できる環境の工夫と具体的な手立てについて振り返る。	○研修で培った内容を職員一人一人が取り組み、行事に子ども達の日頃の姿が活かした ○研究保育の事後研修や研修のまとめを通して、課題をみんなで話し合ったり、振り返ったりして職員で共通理解し、保育を進めることができた	A	A		・子どもと一緒に遊びを楽しみながら面白さを探り見通しをもった教材準備を行っていく
7 教育・保育環境　整備	(1)教育・保育環境の充実	・子ども達が伸び伸び遊べる安心・安全な環境が整えられている ・季節に合った遊びや発達に必要な体験ができる環境が用意されている	○その時期でしかできない遊びを経験できるようにワゴンの整理やワゴンの道具、素材の見直しをしている ○道具を写真にとって表示したり、この場所に行けばこの遊びができる環境を整えたりすることができた（泡、泥、色水） ○遊びと行事のつながりを意識しながら進めることができた ●暑さを考慮しながら季節毎の体験したい内容を実現できる方法を考える必要性を感じる	B	B		・遊びのつながりや行事に向かって見通しが持てるようにする ・季節に合わせて経験させたいことを意図的に取り組めるようにする
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・園便りやクラスだより、行事毎の活動の様子を写真を交え視覚的に保護者に伝え、家庭との連携を図る	○毎月のクラスだより、写真のおたよりを作成し、保護者に活動の様子を知らせることができた ○年間を通して写真やエピソードを入れたおたよりを作成し、保護者の方に園の様子がより具体的に伝わるよう努めた ○日頃から保育中にポイントを押さえて写真を撮り、各種おたよりやHP等では園での活動を知らせることができた	A	A		・時期を逃さず、保護者の疑問や子どもの成長、成果を的確に伝える ・園での生き生きとした様子をおたより、HP, ドキュメンテーション等様々な方法で伝える
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・近隣の小学校やこども園との交流 ・公開保育などを行い、情報交換をし、連携を図る	○他園との交流で少人数では経験できないことを経験し、楽しく触れ合うことができた（安倍口中央・美和保育園） ○小学校の見学や交流では進学への期待が深まった ○他園の公開保育に参加し、少人数ならではの園の課題を共有したり、情報交換をしたりしている	B	A		・安倍口中央や美和保育園や小学生との交流で多くの友達がいる環境も経験できるようにしていく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・地域の様々な人との交流を通し園ではできない経験をする ・安倍口中央こども園や美和保育園との交流を通して人との関わる育ちを促していく	○園外散歩では地域の野菜を見せてもらったり、坂田先生の自然体験教室に参加することで地域の動植物に興味を示すようになった ○多くの人の前で表現することを楽しみ、喜んでもらえることを嬉しく感じ、自信につながっている（内宮・安倍口サロン・楽寿の園との交流が継続している） ○保育者が地域の方に挨拶する姿を通して子ども達も人とのふれあい方を学んでいる	A	A		・安倍口サロンや内宮サロン、楽寿の園との高齢者との関わりが深まるような内容を工夫していきたい